

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2373400486		
法人名	株式会社 千 樹		
事業所名	グループホームせんじゅ3F		
所在地	愛知県犬山市中山町1丁目38番地		
自己評価作成日	平成24年2月15日	評価結果市町村受理日	平成24年5月1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉総合研究所株式会社		
所在地	愛知県名古屋市中区百人町26 スクエア百人町1階		
訪問調査日	平成24年2月29日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・利用者様の希望を常に聞き入れ、家庭に近い雰囲気作りをして、一人一人に合った温かい個別のケアを実施している。 ・利用者様の要望を職員は常に笑顔で受け止めている。 ・季節感を取り入れた行事や壁画飾り、手作りの食事やおやつ、日本の四季を体験して頂きながら1年間、そして1日1日を有意義に過ごして頂いている。 ・利用者様・ご家族様が気軽に相談できる雰囲気作りをし、安心して暮らせるように努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>地域との交流が盛んで、特に子供たちとのふれあいは利用者により刺激を与えている。さらに、交流の場を増やしたり、深めたりする努力も積極的になされており、児童館の子供たちの訪問は回数が増え、利用者はとても楽しみにしている。近くの喫茶店は馴染みの店となり、そこを訪れる地域の人にも認知症への理解が広がっている。ホームに飾られている利用者が製作した貼り絵作品は大変すばらしく、長所を伸ばし、長所をいかす、という取り組みの成果となって現れている。外出支援にも積極的に取り組み、特に誕生日を利用した個別の希望を満たす企画は、ホームに家族を招き入れるのみではなく、外出先で家族と一緒に祝うなど、利用者にとっても喜ばれるものとなっている。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「社会貢献」を社是とし、挨拶・笑顔・感謝を基本姿勢に、スタッフ一人一人が長所を伸ばし、長所を活かせるようプラス思考で前向きに行動することとして実行しています。	「社会貢献」に加え、理念である「長所を伸ばし、長所を活かす」を職員全員が共有し、利用者の長所だけではなく、支援する職員の長所を見つけ、それぞれを活かした支援がなされている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	太鼓・獅子舞・民謡・初釜・対話など、地域のボランティアグループの方々に来てくださり交流を図っています。また、児童館の子供たちとのふれあいを実施したり、喫茶店に出かけ地域の方々とは交流を図っています。	開設当時から利用者が通う喫茶店では、認知症への理解を得られ、積極的に受入れてもらえ、児童館の子供達の訪問や、職場体験の中学生を受入れるなどの交流や、さまざまなボランティア講師の訪問もあり、豊かな地域交流がなされている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議などに民生委員、町会長などに参加していただいたり、また、利用者の方々と地域に出かけ理解を深めるように努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者が実際に体験しているイベントや防災・食事等にご家族も参加して頂き、一緒に体験して頂いている。 ヒヤリハットや事故なども報告し、どのように対応し、改善していったのかを報告している。	運営推進会議を利用して、ホームでの行事や、防災訓練、消火訓練を市の職員や、地域の人、家族などと一緒に体験してもらい、報告ではなく実体験を共有した上で、話しあうことにより理解を深め、意見を出しやすくしてサービス向上に努めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の担当者とは、常に連絡・報告・相談をしています。状況の変化、実情を伝えながら、連携・協力をお願いしています。 職員のレベル向上にも協力をお願いしています。	市の担当者との連絡は常に密であり、また研修会があれば職員は積極的に参加している。協力要請があれば、介護相談員の受入れも行なっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	地域包括支援センターの職員にお願いし、「身体拘束をしないケア」について講義を頂いたりしながら、正しく理解が得られるように取り組んでいます。	利用者の安全確保のために、職員が一人対応となる夜間のみ、階段室へ続く扉は施錠されているが、それ以外の身体拘束については勉強をつみ、常にカンファレンスで話しあうなど、職員は理解をして取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	地域包括支援センターの職員にお願いし、「虐待の内容」「虐待防止」について職員向けに講義をして頂き、虐待が発生しないようにしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度などの研修が開催されたときには、その研修が受講できるように体制を整えています。また、研修後はカンファレンスやミーティングなどで研修報告をしてもらい、職員に伝達しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、「重要事項説明書」「契約書」をきちんと説明し、納得して頂いた上で同意を得るように努めています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や家族会などで家族の意見や要望を聴取しています。介護相談員を受け入れ利用者の相談等に乘っていただいております。	家族の訪問時や、家族会、運営推進会議の場などで、家族の意見や要望を聞いている。それを職員間で話し合いサービスの質の向上に活かしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	「スタッフ意見ノート」に記入して頂いたり、会議・ミーティングなどで意見や要望を聞いたりしています。また、その意見や要望を業務改善等に役立てています。	「スタッフ意見ノート」だけではなく、カンファレンスやミーティング、また出勤前、帰宅前の空き時間なども活用して、職員の意見、要望、改善案などを管理者は聞き取り代表者に伝えている。それを汲み取り運営に活かしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の能力に合わせて、役割・担当を決めて、やりがいを持って働けるように努めています。パートから社員への登用など実施しています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	レベルアップを図るため、職員の望む勉強会などを実施しています。外部の研修会にも参加できるように研修の情報は伝え、参加者については勤務の調整などとしています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	事業者連絡会に参加し、他事業者との情報交換を図っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人の生活歴、趣味、嗜好等をアセスメントし、その方の要望に傾聴しながら、介護プランを作成し、そのことを職員全員が共通認識の下に介護が出来、不安なく生活して頂けるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初回面接時に不安なことや要望を聴き取り、不安なことなどが取り除けるように努力していく。 いつでも相談し易い雰囲気作りに努める。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	現状を把握し、今何が必要かを見極めて、その時必要なサービスをご本人・ご家族と話し合い、臨機応変に対応しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	常に利用者の立場に立ち、個々に合わせて、喜びや不安を共にできる関係を築いていけるように努めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員と家族が利用者に対して同じ認識が保てるように絶えず連絡し合い、協力し合い、ご本人とご家族が安心して暮らしていけるように配慮しています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご自分の生活してきた環境に近い物の持ち込みをご家族にお願いしています。また、面会をご家族だけでなく、ご近所の方などなたでも面会ができるようにしています。 近隣に散歩に出かけたり、馴染みの場所に出かけたりしています。	利用者はホーム近隣の人が多く、スーパーなど馴染みの場所に出かけている。ホームから出かける喫茶店など、新たにできた馴染みの場所もあり、また、そこへ利用者が知人と出かけたりもしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	体操やレクリエーション、音楽療法、ティータイムなど、皆さんで参加できる時間をなるべく多く作り、お互いに係わり合いが持てるようにして、孤立感を味わうことのないように努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了しても、イベントなどに参加して頂けるようにご案内しています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で言葉や表情・態度などから本人の真意を察するように努めています。 ご家族の面会時には、ご家族からも状況を把握するように努めています。	職員は利用者を“寂しい思いをさせない”“やきもちを焼かせない”ように、日々目配り・心配りに努めている。それを下に表情や行動を見て察して思いや要望の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人一人、今までの生活歴や思い出・若き日のことなどについてできるだけ、本人や家族から聞き取るように努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご本人の日常の会話の中から生活への思いを聴き取り、一人一人の状況を把握するように努める。 ご本人の出きることに着目し、日常生活の支援をするように心掛けています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、ご家族の意向は、普段の関わりの中で意見や要望を伺いながら把握するようにし、ご本人の意向や能力を生かせるように配慮しながら、カンファレンスや担当者会議にて、職員の意見を聞きながら、現状に即した介護計画を作成していきます。	毎月の会議やカンファレンスをもとに3ヶ月ごとの見直しをしているが、日々、利用者の状況に応じて、その都度話し合い、現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別ファイルを作成し、食事量・水分量・身体状況・日々の様子などを記録し、必ず就業前には記録の確認をして、利用者の状態を共有しながら、業務に従事するようにしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人一人の状況に合わせて、臨機応変に対応しています。 ご家族の要望もその都度、出来る限り対応するように心掛けています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	季節に合わせた外出を実施する時には、社会資源をフルに活用し、心豊かな生活が送れるように支援しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人やご家族が希望するかかりつけ医となっておりますが、当グループホームは、連携医療機関の主治医が月2回往診に来られますので、ご本人・ご家族の希望を優先し決めております。	定期的にホーム協力医の往診があり、また、本人家族の希望する主治医との連携も密に図れている。服薬は薬剤師が訪問して利用者に声かけするなど様子を見に来てくれている。救急時を含め細部にわたり、適切な医療が受けられるよう支援をしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションと医療連携体制をとっており、馴染みの看護師が利用者の健康管理や医療相談に関わっております。24時間の連携を取っておりますので、夜中でも緊急時には駆けつけていただけます。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には医療機関と連携を図り、情報交換に努めております。管理者などが、利用者を見舞い、状況把握に努め、早期の退院の機会を逃さないようにしております。また、退院後も情報交換を常に行い、医療機関の支持を仰ぎながら介護に努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した時の指針を定め、ご家族に説明し、同意を頂いた方につきましては、医師や看護婦と相談した上でできるだけご家族の意向を汲み取るようにしています。	家族に重度化や終末期の対応については入居時に十分な説明をして理解と了承を得ている。職員との話し合いも、緊急時の対応などに連携が図れるように努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当てや初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署の協力の下、救急法の訓練を実施し、万が一の場合も慌てず迅速に対応できるように適宜訓練を行っています。また、応急処置の方法などは看護師による勉強会など実施しています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力の下、消火訓練・避難訓練を実施し、避難経路の確認、消火器の使用方法など万が一の場合も慌てず迅速に対応できるように適宜訓練を行っています。また、ご家族・民生委員・市の職員などにも参加して頂き、協力体制を整えています。	ホームは建物の3・4階に位置し、緊急時は昼夜を問わず各フロアの非常口誘導への訓練を強化している。また火災時や地震時などに地域住民の受け入れをするよう地域との連携に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	羞恥心を傷つけないよう、さりげない声かけに心掛けています。 誇りを傷つけない言葉かけを心がけ、その人らしい暮らしができるよう対応しています。	人格やプライバシーを傷つけないように、声かけに配慮している。書類面は事務所の目に付きにくい所に保管して個人情報保護に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	上手に表現できない方もみえますので、表情や動作などを見逃さないよう、何を伝えたいのか把握できるよう努めています。 また、ご本人が自分で決定できるよう、多くの選択肢を提案し、個人の希望や思いに答えられるように心掛けています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れはありますが、利用者本人の希望を優先し、職員の都合で1日の流れを作らないように、ご本人の過ごしたいように一人一人の気持ちを尊重し、臨機応変に対応しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服装は、ご本人に選んで頂けるように、また、おしゃれを楽しむ気持ちを無くさない様に収納を考慮しています。 その人らしい身だしなみができるよう、アクセサリーなど自由につけて頂いております。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好みの把握は、もちろん見た目の良く食欲をそそるような盛り付けを心がけ、職員と一緒に食事を取りながら、コミュニケーションを図り楽しい時間を過ごして頂ける様にしています。 また、おやつ作りなど一緒に作ったりして、持てる力を無くさない様にしています。	朝夕はホームで調理している。昼は併設するデイサービスの厨房の配食があり、アレルギーやカロリーなど、利用者の好み配慮されている。定期的にホットプレートなどを用いて利用者と一緒に作って、食べることを楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の食事量や水分量を毎回記録し、残食が体調によるものか、嗜好的なものかを把握し、職員が情報を共有し状況に合わせ調理方法を工夫したりして、栄養が偏らないようにしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨きの声かけを行い、一人一人自分で実施できるように支援しています。 職員が口腔内の状況を把握し、清潔が保てるようにしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の間隔を把握し、定期的にトイレ誘導を行いトイレでの排泄を促しています。一人一人の表情・しぐさ・言動などからも排泄パターンを読み取り適切な対応ができるようにしています。	排泄チェック表を用いて時間や仕草などを把握し、利用者一人ひとりに合わせた排泄の自立支援ができており失禁はほとんど無い。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	バランスの良い食事・繊維質の多い食材を取り入れるなど食事に気をつけています。また、体操など適度な運動を実施し、出来るだけ自然排便が出来るよう心掛けています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本的な入浴日・入浴時間は決まっていますが、一人一人の体調、その日の気分や希望に合わせて臨機応変に対応しています。	入浴の順番は公平にしている。入浴拒否の人でも声をかける職員を変えたり、入浴の場所を変えたりと、その日の気分や要望に添って、本人が楽しむように取り組んでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々のリズムに合わせて、日中の活動を重視しながら、夜間睡眠の妨げにならないように配慮しつつ、休息を取って頂いております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的・用法・副作用などについて、職員全員が把握し、誤薬、飲み忘れがないように服薬確認を徹底しています。また、服薬時は、ご本人がきちんと飲み終えたかも確認しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家庭生活と変わりなく過ごして頂けるように、今までできていたことで、できることはなるべくして頂ける様に掃除の手伝い、食器に後片付け、洗濯のたたみなどをして頂いております。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節を感じて頂けるような初詣や花見・紅葉見物などの外出、近くの喫茶店への外出、身近な場所への散歩など、その日の体調や陽気に合わせ実施しています。また、遠出の場合は、職員の協力・家族の協力などを得ながら実施しています。	日常的には近隣に買い物や散歩をしている。家族や地域の協力を得ながら、年に2回、テーマパークや水族館など近場での遠足を実施する他、歌謡ショーや映画鑑賞などもある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出時にご自分で支払って頂くようにしています。また、欲しい物がある時は、職員と一緒に買物に出かけ、購入してくるなどの支援を行っています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族への手紙や年賀状などの発送、受け取りの支援をしたり、家族の方の声が聞きたい時など電話を繋ぐ支援をしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を感じられる作品を一緒に作成し、その作品を展示して、室内にいてもいつも季節が感じられるように工夫しています。衛生面には細心の注意を払い、毎日の掃除・消毒などは徹底して実施しています。また、室内空調は暑過ぎず、寒過ぎず、毎日の陽気に合わせ調整しています。	リビングや洗濯干し場から見える景色は季節を感じることが出来る。トイレや浴室も広く使いやすい。廊下の壁には立体型のひな人形や季節に応じた作品や利用者と職員の共同作品も数多く飾ってある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	お話しするスペース、作業をするスペースなど一人一人に合わせた場所作りに努めています。廊下などに椅子を置くなどの工夫をして、独りになれる個人空間も設けています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今までの生活で使用していた使い慣れた物を持ってきて頂き、落ち着いた生活、安心して過ごせる空間、希望する空間などの空間作りに配慮しています。	利用者の自宅と変わらない家具の配置や装飾品を備え、安心して過ごせる空間となり、居心地のよい居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部はバリアフリーや手すりの設置、エレベーター設置など安全に過ごして頂けるようになっていきます。見間違えやすいもの、わかりづらいものは出来るだけ無くし、不安のない生活ができるようにしています。		

外部評価軽減要件確認票

事業所番号	2373400486
事業所名	グループホームせんじゅ

【重点項目への取組状況】

重点項目①	事業所と地域とのつきあい（外部評価項目：2） 昨年度より始まった児童館の子供たちとの交流機会がさらに増え、利用者はその訪問を大変楽しみにしており、おもてなしの用意を自分たちでもするようになった。近隣の遊技場からの招待を今年度も受け、出かけることで、にぎやかな環境や遊技場従業員とのふれあいではよい刺激をうけている。開所当時から立ち寄る喫茶店では認知症への理解がすすみ、利用者が安心して利用できる馴染みの店となっているほか、ボランティア講師の訪問も多く、豊かな日常生活を送ることができる助けとなっている。	評価 ○
重点項目②	運営推進会議を活かした取組み（外部評価項目：3） 運営推進会議の場を利用して、消火訓練、防災訓練、家族会を行うことで、出席者のホームでの取り組みについての理解を増すことができている。また、花見のように利用者の笑顔を見てもらうだけではなく、防災訓練で非常時には利用者がどう行動するか、しないか、も同時に確認してもらうことで、一緒に問題点を見つめる機会にもなり、それは運営改善に活かされている。	評価 ○
重点項目③	市町村との連携（外部評価項目：4） 市役所担当者とは連絡を密に取り合い、ホーム側の相談や、質問、要望を言える関係にある。また、地域の事業者連絡会でも市と連携をとり、さらに介護相談員をホーム側で受け入れることもある。	評価 ○
重点項目④	運営に関する利用者、家族等意見の反映（外部評価項目：6） 運営推進会議を利用しての家族会や、行事で利用者の様子を家族に見てもらい、一緒に楽しんでもらうとともに、そういう機会に家族の意見、要望をきき、また汲み取る努力を職員はしている。と同時に次の行事の折にやりたいことや、誕生日の特別外出といった要望も汲み取り、利用者、家族ともに楽しめるよう努めている。ホーム便りでも利用者の様子を伝えているが、さらに電話や面会時にも職員が細かく伝えるようにしており、その際家族の意見や要望も受け入れ、それを職員が共有することで家族や利用者の意見を取り入れた支援がなされている。	評価 ○
重点項目⑤	その他軽減措置要件 ○「自己評価及び外部評価」及び「目標達成計画」を市町村に提出している。 ○運営推進会議が、過去1年間に6回以上開催されている。 ○運営推進会議に市町村職員等が必ず出席している。	評価 ○ ○ ○
総合評価		○

【過去の軽減要件確認状況】

実施年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
総合評価	×	○	○			

1. 外部評価軽減要件

- ① 別紙4の「1 自己評価及び外部評価」及び「2 目標達成計画」を市町村に提出していること。
- ② 運営推進会議が、過去1年間に6回以上開催されていること。
- ③ 運営推進会議に、事業所の存する市町村職員又は地域包括支援センターの職員が必ず出席していること。
- ④ 別紙4の「1 自己評価及び外部評価」のうち、外部評価項目の2、3、4、6の実践状況（外部評価）が適切であること。

2. 外部評価軽減要件④における県の考え方について

外部評価項目2、3、4については1つ以上、外部評価項目6については2つ以上の取り組みがなされ、その事実が確認（記録、写真等）できること。

外部評価項目	確認事項
2. 事業所と地域のつきあい	(例示) ① 自治会、老人クラブ、婦人会、子ども会、保育園、幼稚園、小学校、消防団などの地域に密着した団体との交流会を実施している。 ② 地域住民を対象とした講習会を開催若しくはその講習会の講師を派遣し、認知症への理解を深めてもらう活動を行っている。
3. 運営推進会議を活かした取組み	(例示) ① 運営基準第85条の規定どおりに運用されている。 ② 運営推進会議で出された意見等について、実現に向けた取り組みを行っている。
4. 市町村との連携	(例示) ① 運営推進会議以外に定期的な情報交換等を行っている。 ② 市町村主催のイベント、又は、介護関係の講習会等に参画している。
6. 運営に関する利用者、家族等意見の反映	(例示) ① 家族会を定期的（年2回以上）に開催している。 ② 利用者若しくは家族の苦情、要望等を施設として受け止める仕組みがあり、その改善等に努めている。 ③ 家族向けのホーム便り等が定期的（年2回以上）に発行されている。

（注）要件の確認については、地域密着型サービス外部評価機関の外部評価員が事実確認を行う。